

「留真温泉再建」と 「道の駅」の整備に向けて

浦幌留真温泉は、本町開拓の歴史と共に歩み、時には開拓で疲弊した身体や心を癒し、時には都会の喧騒を逃れてきた人々の心を和ませ、自然味溢れる癒しの湯としての名声を築いてきましたが、施設の老朽化による客離れ、燃料費の高騰により、昨年12月より休館しています。

本町の観光資源・町民の保養施設として果たす役割や、温泉を活用した各種の起業化の可能性を考え再建の道を模索していましたが、この度「まちづくり交付金制度」の支援を受け、産業交流施設「道の駅」の整備事業と併せて再開発する計画を検討しています。

「職員による留真温泉再検プロジェクト会議」や「留真温泉町民検討委員会」、そして「地域産業研究ネットワーク会議」において検討されているそれぞれの計画内容をお知らせします。

留真の里交流施設整備事業案（留真温泉改築）

町のまちづくり計画では、平成22年度に1億2千万円の事業で、浴槽と休憩室を中心とした改築を計画していましたが、昨年の定例町議会での冬期間休業に対する一般質問に対し、町長は「今後の運営については、早急に職員及び住民代表等によるプロジェクトを立ち上げ、方向性を見出させるよう進めたい」と答弁しました。その後、職員プロジェクト会議において検討されてきたところです。

温泉整備の財政的考え

留真温泉の改築については、職員プロジェクト会議で検討中ですが、素案として、日帰り温浴施設を中心として総事業費2億1千万円でまちづくり交付金事業を検討しています。交付金事業は起債の対象となり、一部は過疎債でも対応できる予定です。留真温泉再開発、町道整備、産業交流施設事業を合わせた総体事業費3億4千万円のうち4割が補助され、町の持ち出し分は約2億円。返済時に7割が戻る「過疎債」を使い、仮に10年間で返済するとした場合、年間約600万円の支払いとなります。

まちづくり交付金とは

まちづくり交付金事業は国土交通省が所管する補助事業で、「地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効果的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図ることを目的」に平成

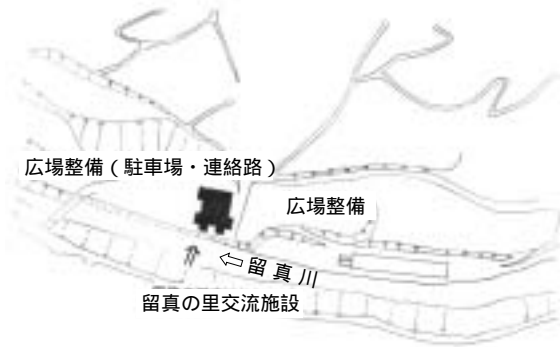
温泉建設後の管理運営

建設後の管理運営は、指定管理者制度を導入して運営を民営化し、民間活力での運営を考えています。採算性については、建物をリニュー

アルしたことだけでは大幅な利用客の増員は期待できないため、町民がゆったりとくつろぎ温泉を楽しめるようなスペースを設けたり、健康セミナーのような講習会の開催等、集客を図る為の工夫・努力が必要になります。集客方法、運営のあり方等についても町民から提案をいただきたいと考えています。

温泉周辺の整備

駐車場及び交流広場の整備は、周辺の道有林内の散策路を含めた自然と森林・溪流を核とし、町民が自然の中で交流することにより身体的・精神的健康へ



の意識を啓蒙すると共に、森林浴 家族交流が楽しめる多目的自然体験広場として考えています。

町民検討委員会の質疑から

(5月23日)

今までの利用者の推移とこれからの見込みについて。

利用者調べによると、平成14年・15年は約2万人が利用しています。今後留真温泉を新築した場合、1万人位増えると予想しています。

現在、日帰り入浴料は400円ですが、他の温泉施設に比べると入浴料が比較的安いので、入浴料の設定を含め検討が必要です。宿泊施設も必要との意見がありますが、人件費の割合が非常に高くなり、リスクが大きくなります。日帰り入浴だけの経営だとパートだけの運営も可能だと考えています。

また、食事の賄いについては、町の飲食店から運ぶ方法があり、常設運営するより経費を節減できます。町内の商店との協議が必要です。

燃料費のコスト削減をどう考えるか。新エネルギービジョンに対する補助の活用は。

留真温泉の源泉は水温30度なので沸

かすためのエネルギーが経費の大きな負担でした。状況改善のためには、新エネルギー活用が不可欠です。本町では平成15年度に新エネルギービジョンを策定しており、留真温泉には新エネルギーとして太陽光発電や木質バイオ等の活用を検討しています。暖房燃料のペレットは設備投資が通常の4倍といわれ、導入は難しいと思います。

人口減少のおり、新築しても急に利用者が増えるとは思えないが、人口の減少に関わらず、留真温泉の湯の効能(良さ)を考えると町外利用者を含め前回利用実績よりプラスになると考えますが、経営を安定させるためにも、利用者促進を今後検討しなければなりません。

留真温泉の源泉は飲用としても効能があり利用者呼び込むことのできる材料です。体内健康にもつながるので、老人クラブ等や一般客に宣伝し利用増加を目的とした企画を模索します。温泉療養士による健康増進セミナー等を開催するなど、工夫・努力が必要になります。

市街地から留真温泉までの交通の便はどうするのか。町主催の研修等であれば町民バス等の運行が可能だが、老人や個人では利用が難しい。

バスの運行については今後協議します。指定管理者制度を導入した際に、経営状況がどうなるかの試算もしなければなりません。

留真温泉は源泉の良さが最大の魅力。お風呂が非常に小さいが何人が入浴できるのか。露天風呂は開放感が大事なので自然を活かした造りにしては。

浴槽自体にはおよそ5名の入浴が可能です。洗い場が7名分で、露天風呂を含めて一度に入浴できる人数は15名程度です。大樹町の晩成温泉くらいの



広さをイメージしています。

露天風呂は、向かいに川、その先には林道があり人が通らないとは限らないので入浴者が外部から見えないように柵で覆いましたが、この自然環境から囲うのはもったいないので検討します。設置場所については、山と川を眺められ、鮭の遡上を見ることができると可能性があるので、川側で提案しました。

サウナは必要か。サウナの場所もお風呂にしてはどうか。岩盤浴を設置することも考えられないか。

この図面はあくまでも提案です。補助金の比率で基幹事業と提案事業があり、比率が変わると補助率が変わりますので、基幹事業もある程度備えなければなりません。この事業を含め現段階で試算している補助率は、温泉及び物産交流館並びに道路整備事業を含めて約38%です。最大限40%ですのでなるべく補助を受けられる割合で比率を考え、町民の意見を最大限活かしながら外観等を含めて協議していきます。

この図面は町の建築係が設計しました。プロポーザル方式を導入することも考えていますので、設計会社より提案等も得ることもできます。

宿泊棟がなければ、湯治客の確保は難しい。高齢者が自己負担してどこま

で利用するのか。家族連れなど幅広い世代が利用しやすいよう公園などの周辺整備が必要では。

集客層の拡大を考えれば将来的に必要だと考えています。近くに砂防ダムがあり釣りを楽しむこともできます。温泉施設の奥の散策路入り口近くに樹齢400年の桂の木があり、それも魅力になると思います。留真温泉周辺を含めた魅力を再認識し、その魅力を集客につなげたいと考えています。

また、将来構想としては、宿泊棟を裏

の方に建設したり、家族単位で利用できるコテージを建設する案もあります。留真温泉は近隣町村にある温泉と差別化した形がいい。温泉にこだわらず周辺の森林を含めた中の留真温泉だと思ふ。森林には町民は知らなくても町外者に知られている魅力がたくさんある。2年目となる留真温泉ボランティアは昨年より会員数が倍以上になって町民も注目していると思うが、地元の方にもっと関心をもってほしい。

産業交流施設「道の駅」の整備案

構想については、以前から農業者等からの強い要望がありました。産業交流施設では、従来は補助の道がなく、すべて町単独費で建設しなければなりません。

この度、国・道関係機関と協議を重ね、留真温泉再開発等と組合わせて、まちづくり交付金」制度の支援を受けることにしたものです。

現在、日高から白糠間の国道38号線沿いには道の駅が1軒ありません。そこで本町の地理的特異性を利用して、情報発信基地として整備することによ

り農業、水産業、林業、商工業の枠を超えて町民が交流し、有形・無形の地場産品をPRすることで地域の活性化が図られることを目的に本事業を計画しました。

建設の場所に関して

国道38号線沿いで、国土交通省の「道の駅」の認定登録を目指すためには、一定の条件があります。

休憩施設としての利用のしやすさや、「道の駅」相互の機能分担の観点から、適切な位置にあること。

利用者に多様なサービスを提供する施設であって、道路および地域に関する情報を提供する案内所又は案内コーナーが備わっていること。

駐車場は24時間利用可能で、利用者が無料で利用できる十分な容量の駐車スペースがあり、駐車台数は概ね20台以上。

トイレについては24時間利用可能で、便器が概ね10器以上あり、高齢者や障害者用など様々な人々への配慮が必要。公衆電話は1台以上設置されていて24時間利用可能であること。

景観に十分に配慮し、地域の優れた景観を損なうことの無い施設計画であ



ることが求められています。

町の現在の財政状況で新たに土地を求めることは不可能であり、また、国道沿いの他の町有地では整備費が増大することが懸念されます。食事を提供できるレストランが併設していることなどを総合的に判断し、現在計画している場所（レストラン「らぼろ亭横」）が適地であると検討されました。

管理についての考え方



産業交流施設（道の駅）約 225 m²



産業交流施設（道の駅）の管理運営については、現在、町民有志で構成している「地域産業研究ネットワーク会議」に事業計画の説明をしています。

トイレと道路情報発信コーナー部分を除く施設の管理運営については、地場産品等を提供する人たちが組織を立ち上げ、指定管理者制度を導入した形の自主管理運営を考えていますが、今後、各産業関係者や商工会、農協などと十分に協議していきます。

地域産業研究ネットワーク会議での意見（6月6日）

浦幌の特産品だけの物産施設では客を呼ぶのは難しいのでは。若い家族連れも利用できるような工夫（遊具等）が必要。

大野村には過疎化の危機感から村民あげての手作りの物産販売所があり、昔ながらの駄菓子やおもちやすべてが手作りで、個性を感じた。

補助事業なので予算内で行っていくかなければならないと思う。以前、旧オベトン川のワークショップでは要望が多く、結果として工事がストップした経過があるので、そうならないようにしてほしい。

建物の後ろに駐車場を配置したのでは利用しにくい。どのような人達をターゲットにするかが重要。

入り口の整備は開発建設部で行ってもらえるのか。下り車線からの車は、この道幅では入りづらい。

自主管理ということは、赤字が出た場合に町は責任を負わないのか。経費（光熱水費）も利用者で負担か。売り子さんに徹底した教育を行って欲しい。

今回の産業交流館・道の駅構想については評価したい。自主管理ということ、運営資金や仕入れ、賞味期限が切れた在庫の処分等、問題が沢山あると思う。様々な問題を提起しながら解決策を見出し、組織化へ向けてほしい。

終わりに

留真温泉再開発・産業交流施設を含む現在計画中の「まちづくり交付金事業」については、今年7月、政府において将来の地方交付税の動向等を含む、2006年骨太の方針」が閣議決定され、発表されました。その内容について分析をすすめるとともに、実施についても再度検討しなければならないと考えていますので、ご理解願います。

今後、産業交流施設の建設については、準備委員会（仮称）を立ち上げて検討していきます。留真温泉再開発については検討委員会で検討を重ねていきたいと考えています。それぞれの会議の様子は広報等を通じお知らせします。